

2019年10月12日 ~ 2019年10月18日

2019年10月23日

先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は対米ドル・対円ともに上昇しました。トルコの2年国債金利は低下しました。

米国のペンス副大統領は、17日（現地、以下同様）にエルドアン大統領と会談を行い、トルコによるシリア北部への軍事攻撃を停止することで合意したと発表しました。ペンス氏は同時に、米政権が15日にトルコに科した制裁を取り消すと述べました。これを受けて地政学リスクが後退し、トルコ・リラは対米ドル・対円ともに上昇しました。また、国債金利は低下しました。

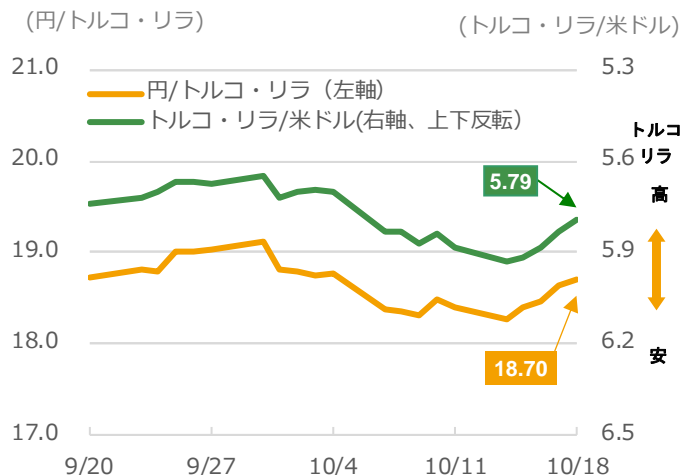
今週の見通し

エルドアン大統領は22日、プーチン露大統領との会談で、軍事作戦の一時停止を事実上延長することで合意しました。これに伴いトルコはロシアの支援を受けてシリア内に「安全地帯」を設定し、またクルド人武装勢力は同地域から排除されるとみられています。シリア情勢をめぐっては、いったん地政学リスクは後退したと考えています。

今週はトルコ中央銀行の金融政策委員会が開催される予定です。インフレ率の鈍化を背景に政策金利の引き下げが予想されています。地政学リスクは後退したものの、足元では英国のEU（欧州連合）離脱問題が難航しており、今週のトルコ・リラは引き続き市場のリスクセンチメントに左右されると考えています。

トルコ・リラ 為替推移

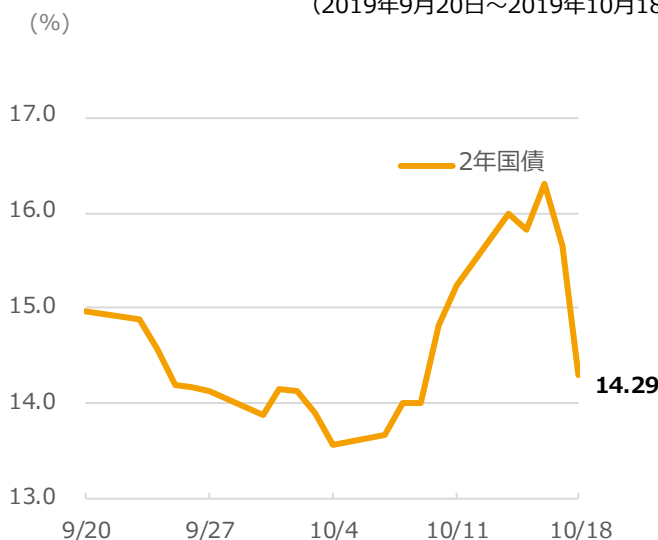
(2019年9月20日~2019年10月18日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

トルコ 金利推移

(2019年9月20日~2019年10月18日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。